

①希望を持てるのは、神様の過去の出来事に目を注ぐとき！

苦難をなめた神の民の詩人が、何故に、「新しい歌を主に向かって歌え」(1)と歓喜の声をあげられるのでしょうか？ 続けて、「主は驚くべき御業を成し遂げられた(から)」と語っています。主がなされたことを語る 1~3 節では、全て完了形が用いられています。完了形は過去形とは違い、過去にこんなことがあったと言っているだけではなく、その状況や影響が今も続いていることを示しているのです。詩人は、今持っている希望の根拠を、神様が父祖たちに起こされた救いの出来事に置いているのです。この出来事を起こされた方が今も私を救い導くと言って下さっている、と。これが希望の持てる理由です。

② 希望を持てるのは、神様の将来の出来事に目を注ぐとき！

しかし、希望は過去に基づいて持てるだけのものでもありません。この詩人が神様に向かって歓喜の叫びをあげることができるのは、神様がなして下さった過去を思っているからだけでなく、神様が約束して下さった将来を思っているからでもあります(9 節)。つまり、希望は過去だけでなく、将来に基づいて持てるものでもあるのです！聖書に出て来る信仰者は皆、旧約から新約の最後に至るまで、この両者から来る希望を抱いて生きてきた者たちです。

③信仰者は、神様の過去と将来を思いながら、その間の今を生きる！

このことを思うなら、今という時は過去と将来の間であり、色んなことが起きても不安ではなくなります。詩人は 4~8 節で、人間だけでなく被造世界全てのものが神様に感謝の歓喜の声をあげよ、と語っています。「海とそこに満ちるもの、世界とそこに住む者よ。潮よ、手を打ち鳴らし、山々よ、共に喜び歌え」(7-8 節)。自分の幸不幸だけ考えがちな私たちより、よほど広い世界を味わいながら生きているなど思われます。この中の「潮」は「川」とも訳せることを知った時、原発事故で汚された山や川や海を思わずにはおれませんでした。神様に希望を抱いて生きる信仰者は、今がどんな状態であろうとも、山も海も川もそこに生きる全てのものが神様を讚美できる世界になるように祈りながらそれに相応しい生き方をしていきたいものです。